

教科名：  
「高位平準動物看護学」

# 自律学習理解度確認課題

※ 10 問中 2 問にご解答ください。

氏名：

動物病理学

科名：動物病理学

問題1 病理学とはなにか、説明してください。

解答1

問題2 恒常性とはなにか、説明してください。

解答2

問題3 退行性病変について例を挙げて説明してください。

解答3

問題4 進行性病変について例を挙げて説明してください。

解答4

問題5 循環障害について例を挙げて説明してください。

解答5

問題6 炎症について例をあげて説明してください。

解答6

問題7 免疫反応について説明し、その異常による疾患を例をあげて説明してください。

解答7

問題8 腫瘍の形態的特徴、分類、及び種類について説明してください。

解答8

問題9 腫瘍が増殖する原因について説明してください。

解答9

問題10 先天異常について例をあげて説明してください。

解答10

|  |
|--|
|  |
|  |
|  |

教科名：  
「高位平準動物看護学」

## 自律学習理解度確認課題（模範解答）

氏名：

動物病理学

科名：動物病理学

|      |  |
|------|--|
| 問題1  | 病理学とはなにか、説明してください。   |
| 解答1  | 病理学は疾病の原因とその成り立ちについて、形態学的手法を用いて解析を行う学問。獣医師による診断と治療、予防に病理学的結果が反映されているが、疾病の原因と発症の仕組みがわかればその進展も予想ができ、内容をよりよく理解し、動物看護師として今後の看護に活かすことができると共に、協働する獣医師とのコミュニケーションに活用することができる。病理学は、基礎と臨床の橋渡しを行う学問といえる。   |
| 問題2  | 恒常性とはなにか、説明してください。   |
| 解答2  | 生体内では、神経系、内分泌系、免疫系の働きによって、体内の環境が形態的・機能的に常に一定の範囲内にほぼ保たれていることをホメオスタシス＝恒常性という。この生体恒常性維持機構に異常が生じることで疾病が起こる。  |
| 問題3  | 退行性病変について例を挙げて説明してください。  |
| 解答3  | 細胞・組織は物質代謝を行って動的平行状態を保っている。この物質代謝に障害がおこると、障害因子にたいして抵抗を示さない被害状況を起こす。これを退行性病変といい、組織の機能低下や消失を伴う。例①変性：代謝が障害され、組織や細胞に生理的に存在しない物質が出現したり、生理的に存在する物質が異常に量沈着したり、異常な場所に出現すること。②萎縮：一度正常な大きさに発育した臓器、組織、細胞がその容積を減じること。③壊死とアポトーシス：細胞への障害が強いと細胞が適応できず不可逆的な障害となり細胞が死に至る。生体における細胞・組織の病的な死を壊死という。一方、生体のプログラムに従って起こる生理的な細胞の死をアポトーシスという。   |
| 問題4  | 進行性病変について例を挙げて説明してください。  |
| 解答4  | 進行性病変は病的刺激に対する生体の適応であり、細胞の増殖・分化が関係する変化である。例①再生：細胞や組織の欠損が起きた場合、残った元の同じ組織の増殖により欠損が補われ、元の状態に戻る現象。②肥大と増生（過形成）：肥大とは、組織を構成する個々の細胞の容積が増大したため、全体の組織臓器の容積が増加すること。増生（過形成）とは、細胞の数が増加することにより組織臓器の容積が増加すること。③化生：分化成熟した細胞組織が、異なる形態及び機能をもつ他の細胞に変化する現象であり、局所刺激に対する一種の適応現象。④創傷と創傷治癒：創傷は組織あるいは臓器の正常な生理的連続性が、外因性または内因性により破綻した状態。⑤異物処理：対外から体内にはいつてきた異物、あるいは体内で生じた物質に対して、処理あるいは排除して無害化しようとする働き。 |
| 問題5  | 循環障害について例を挙げて説明してください。   |
| 解答5  | 循環器系は血液と組織液（リンパ液）の流れをつかさどる臓器であり、心臓と血管、リンパ管からなる。この働きにより、体内に酸素や栄養が運ばれ、二酸化炭素や代謝物が運びだされると共に、免疫細胞やホルモンの運搬も行われる。ここに障害が起きることにより、血液による循環障害、組織液の循環障害がおきる。例①血液の障害：充血、うっ血、虚血、出血、ショック、血液凝固系と線溶系、栓塞に関する病変 ②組織液の循環障害：水腫、脱水   |
| 問題6  | 炎症についてその兆候、原因、分類、形態的变化などについて説明してください。  |
| 解答6  | 炎症は障害性刺激による障害組織や障害因子に対する生体の局所的防御反応である。炎症の4大主徴とは①発赤②熱感③腫脹④疼痛 5大主徴の場合には上記に⑤機能障害を加える。原因には外因と内因がある。炎症の分類は、原因、経過、病理組織学的特徴、部位や広がり、などを基準にして分類される。形態学的変化として、血管反応や細胞の反応などを急性と慢性炎症経過と合わせて評価し組織反応として図説することができる（テキスト中に図説あり）。また、炎症の持続時間によって、急性炎症と慢性炎症に分類される。炎症の形態学的分類として漿液性炎・繊維索性炎・化膿性炎・出血性炎・壊死性炎・壊疽性炎がある。慢性炎症の形態学的分類として増殖性炎・肉芽腫性炎。   |
| 問題7  | 免疫反応について説明し、その異常による疾患を例をあげて説明してください。   |
| 解答7  | 免疫は、自己と非自己（異物）の識別に基づいて非自己を排除し、自己を守る生体防御である。自然（先天性）免疫、獲得免疫に分けられる。病原体を処理する免疫反応の概要は、食細胞が感染細胞を攻撃する細胞性免疫、抗体が感染細胞を攻撃する液性免疫がある。免疫異常による疾患としては①アレルギー反応：免疫反応が自己に対して過剰に起こり、病的変化を引き起こすもの。②自己免疫疾患：免疫細胞が自己の成分を攻撃することで、様々な組織障害を引き起こす疾患の総称をいう。天疱瘡、エリテマトーデス。  |
| 問題8  | 腫瘍の形態的特徴、分類、及び種類について説明してください。  |
| 解答8  | 腫瘍は、異常な組織の塊であり、その成長は過剰で、正常組織の成長に調和せず、その変化を引き起こした刺激が停止した後もひたすら過剰に成長を続ける。形態的特徴①異型性：成熟した母細胞からの形態的な隔たり。悪性腫瘍ほど異型性が強い。②分化度：腫瘍細胞あるいは腫瘍組織の形態が、その発生母細胞あるいは母細胞に近いか遠いかの度合を表す。分類①発生した臓器（胃癌、皮膚腫瘍、軟部腫瘍など）や発生母細胞（上皮性腫瘍、非上皮性腫瘍）（腺癌、扁平上皮癌など）による分類 ②悪性度による分類（良性腫瘍、悪性腫瘍） ③分化度による分類（高分化、中分化、低分化、未分化） ④広がりによる分類（早期がん、進行がん、末期がん）。腫瘍の種類には上皮性腫瘍、非上皮性腫瘍がある。   |
| 問題9  | 腫瘍が増殖する原因について説明してください。   |
| 解答9  | 腫瘍の増殖には①局所の増殖（良性腫瘍：局所に限局、膨張性増殖、周囲組織との境界明瞭；悪性腫瘍：浸潤性増殖、周囲組織との境界は不明瞭）②転移：原発巣から離れて新たな病巣（転移巣）を形成すること。リンパ行性転移、血行性転移、播種。③再発：局所再発、転移性再発。腫瘍の原因は、外因：物理的（放射線など）、化学的（科学物質など）、生物的要因（ウイルスなど） 内因：先天性素因（遺伝子異常）後天性素因（ホルモン、免疫力など）がある。  |
| 問題10 | 先天異常について、その原因と要因について説明してください。  |
| 解答10 | 先天異常とは、生まれる前から備わったさまざまな異常であり、形態学的異常と機能的異常がある。肉眼的に認識できる形態学的異常を奇形という。原因には①遺伝的要因（遺伝子異常、染色体異常）②環境的要因（物理的要因、化学的要因）  |